

総合的な学習「健康領域」 5年生

「さあ どうしよう！携帯電話」(2時間完了)「ケータイマニユアルを作ろう！」

愛知県丹羽郡扶桑町立山名小学校

養護教諭 桑原朱美

「心と体の主人公づくり」をテーマに「健康領域」にメディアリテラシーの視点を取り入れ、健康教育推進に爆走中。

この授業は、5年生の健康領域「健康と

メディア」の第6・7時間目として実施したものである。携帯リテラシーを取り扱うにあたっては、子ども達の学習と同時に保護者への啓発と小中の連携を視野に入れ、

保護者向け保健だよりによる啓発

保護者が子どもたちとともに学ぶ機会としての授業公開

中学校生徒指導担当者とのTT授業

の3点を取り入れた。

1 中学校のようすが生で聞けることと携帯電話への関心の高さもあって、学年外の保護者の参観も多かった。

1 爆発的に売れているわけ

導入として、初期の携帯電話が非常に重く、かつ高価なものであったこと・近年、急速に普及していることなどを資料を提示しながら説明した。

『たった9年間で、大人だけでなく若者にまで急速に広がった理由として考えられることは何でしょう？』

子ども達からは、「本体や通話料が安くなった・軽量化した・デザインがよくなっ

た・メールができる・ゲームができる」などの意見が出た。発売当初の頃と最近の違いとして、授業者は、次の2点を挙げて説明した。

以前は、主に仕事のために使われており、値段も通話料もとても高価だった。

最近では、料金が安くなり、デザインも機能もよくなって、若者がコミュニケーションの道具として購入するようになった。

2 中学校の先生に聞いてみよう！

『携帯電話というのは、これまでにはなかったまったく新しいメディアです。テレビやラジオ・新聞などのメディアと違うのは数年の間にすごい進化をして、広がってきているということです。』

『ところが新しいメディアが広がると、思っても見なかった使い方がされるようになります。どんなことが、起こっているのでしょうか？』

子ども達は、事前学習として各自が調べてきた携帯電話がからんだ事件やトラブルを発表した。その内容は、

出会い系サイトによる事件やトラブル

ワン切りによるトラブル

携帯電話を操作しながらの運転

迷惑メールに関するもの

などであり、新聞や家族の話などからそれ  
それに関心を持って調べていた。

ここで、中学校の先生から、最近起きた  
携帯電話による事件やトラブルについて、  
イラストを使ってお話していただいた。初  
めは、テレビや新聞などで取り上げられた  
ような大きな事件を、次に『ケータイにか



かわる事件はテレビで報道されるような大  
きな事件ばかりではないんだよ。中学校で  
もたかさんのトラブルが起きているんだ。』  
と、中学校での現状を話していただいた。  
いつメールが入るか分からないからと、  
ケータイを肌身離さずもっている子の例

メールによるいじめや恐喝の例

メル友になった男の子に会いにいった女  
の子が相手の男の子に「ブス」と言われ、  
周囲を巻き込んだのケンカに発展しそうに  
なった例

不幸のメールを転送するために寝不足に  
なって体調を崩した子の例

子ども達にとつては、テレビの中のこと  
だと思っていたことが、身近にも起こって  
いることに大きな驚きがあったようだ。

『携帯電話を発明した人や携帯電話の会  
社の人は、こんな事件が起こると予想でき  
たでしょうか?』

「事件がたかさん起こるとは思っていな  
かった。」と考える子が大半だったが、中  
には「少しはわかっていただけ、売ってたか  
つた。」「少し予想していたけど、こんな  
にたかさん事件が起こるとは思わなかつた」な  
どの意見もあった。

この時間のまとめを養護教諭が、以下の  
内容で説明した。

携帯電話がこれほどまでにいろいろな使  
われ方がされるとは予想できなかった。あ  
まりにも、急激に携帯電話が広がったため、

そのための対策がまにあっていない。

携帯電話を使うということは、重大な責  
任をいっしょに背負うことである。その責  
任は、使う人だけでなく、それを売ってい  
る企業にもある。

使用する人は、犯罪につながったりマ  
ナー違反をしないように注意しなければなら  
ない。携帯を売っている企業は、犯罪やマ  
ナー違反を防止するような対策を考えなく  
てはならない。

現段階では、対策も遅れており、今後、  
さらに予想もつかないような使い方がされ  
て新しい事件が起こる可能性が大きい。

事前のミニアンケートでは、5、6年生  
の65%の人が「携帯電話がほしい」と答え  
ていたことから、『楽しいこともたくさん  
できるし、みんながほしがるとはよく  
わかります。でも、携帯電話は、おもちゃ  
ではないよ。次の時間には、この時間の学  
習を参考に、みんな意見を出し合って、  
それをもとにケータイ使用マニュアルを作  
りたいと思います。』とまとめた。

3 ケータイマニュアルを作ろう

第2時は、前時の学習をもとに、ケータイ

イマニユアルの原稿づくりに取り組んだ。子の時間の初めに、前時で紹介されたトラブルの他に「マナー違反の大人達」として、大人のマナー違反のようすも紹介した。

『ケータイ電話に関するいろいろな事件やトラブルについて、どうしたら、そんなことにならなかったのかな？ということを次に3つの点からグループで話し合ってみよう。』

トラブルの原因を作った人の問題  
トラブルに巻き込まれた人の問題  
家庭や社会などの問題

続いて、未成年が携帯電話を使う場合、大人よりもトラブルに巻き込まれる可能性が高いのは、なぜかを話し合った。

『未成年は大人よりも、トラブルに巻き込まれる危険が大きいですね。そう言う点からも、問題点を話し合ってみよう。』

この時間は、できるだけグループ内の話し合いにまかせ、授業者は、助言にまわる程度とした。

4 ケータイマニユアルを発信しよう！

このマニュアルは、地区の生徒指導担当者協議会へも担当者を通して配布された。このマニュアル配布をきっかけに、地区内の小学校で同様に追試が行われた。子ども達にそのことを告げると、「すごい」「うれしい」と素直に喜び、「ぼく達がつくったんだよね」と嬉しそうであった。

以下は、マニュアルの抜粋である。

山名つ子が提案する携帯マニユアル抜粋

ケータイに夢中で、目の前の人とのコミュニケーションを、忘れていませんか？

未成年の人は、必要なときに、親のケータイを借りるようにしましょう。

いやなメールが来たら、おうちの人や先生や信頼できる人に相談しましょう。

ケータイを使うには、責任が必要です。各自が自覚を持って使しましょう。

企業の人は、未成年者が気をつけるようなポスターを作ってください。

企業の人は、マナー違反による罰金を作ってください。

企業の人は、CMなどで、ケータイの危険な面も知らせてください。

子ども達は、授業のまとめとして、中学校の先生にお礼の手紙を書いた。

「迷惑メールがとて怖いことや迷惑メールが来ても無視すればいいことがわかりました。携帯電話は、責任を持てる年になったらほしいと思いました。」

「保健の授業はすごく楽しかったです。携帯電話は役に立つように作ったのに、いじめなどにも使う人がいることがわかりました。ぼくたちは、永屋先生が帰った後、どうすればトラブルに巻き込まれないか、携帯電話を作る企業もどんな機能をつけたいか」いろいろ考えました。マニユアルの完成を楽しみにしててくださいね。」

「私のお母さんは、携帯電話に夢中であまり話を聞いてくれなくなりました。私は、もし、携帯電話を持ってもらっちゃんと話を聞いてあげたいと思います。」

授業としての検討課題は多いが、家庭・地域も巻きこんだ取り組みに広がり、子ども達も充実感があったようだ。担任としての立場で取り組むならばもっともっと深い追求や社会への働きかけもできたのでは？

と思う。